令和８年度 第１回宗像市下水道事業運営審議会議事録

※発言者ごとの要点筆記で作成

開催日時	令和８年１０月２２日（木） １０:００～１１:４０
場所	宗像終末処理場 ２階会議室
委員出席者	久場委員、寺嶋委員、米本委員、平田委員、合島委員、 國廣委員、田中委員
委員欠席者	なし
市出席者	山倉環境部長
事務局出席者	【下水道課】 花田、高武、占部、宇宿、水元、杉山、布谷、林田、菅原

１．開会

【事務局説明】

・宗像市下水道事業運営審議会規程に基づき、委員の半数以上が出席のため、本日の会議が成立することを報告

・宗像市市民参画、協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例に基づき、本審議会は原則公開、議事録を作成して公表することを説明

・あわせて、傍聴者が１人であることを報告

２．環境部長挨拶

山倉環境部長から開催の挨拶

３．委嘱状交付

山倉環境部長から各委員へ委嘱状を交付

４．委員及び事務局職員紹介

各委員及び事務局職員の自己紹介

５．会長及び副会長の選出

【事務局説明】

・規程に基づき、会長は委員の互選、副会長は会長の任命により決定することを説明

事務局から会長案を提案　⇒ 久場委員を選出

久場会長から副会長を任命 ⇒ 寺嶋委員を選出

６．審議事項

（会　長）審議事項に入る前に、議事録の作成について確認したい。

【事務局説明】

・規則に基づき、３つの作成方法などを説明

以下の事務局案を提案し、承認を得た

⇒作成方法：「発言者ごとの要点筆記」

⇒発言者名の表記：「会長・副会長・委員・事務局」

⇒議事録の確認方法：「事務局案を全委員に配布→事務局が最終案作成→会長と副会長の確認→市ホームページに公表」

（会　長）次第６　審議事項に入る。

（１）宗像終末処理場の再構築に関すること

【事務局が資料４　宗像終末処理場の再構築に関することについて説明】

【質疑応答など】

（委　員）資料１０ページの全体配置図の黄色部分は市有地か。ここに建設するのか。

（事務局）お見込みのとおり。処理場増改築のため、予め取得している土地である。

（委　員）赤色部分での水処理を継続しながら建て直す必要がある。赤色部分の何れか１箇所が黄色部分に移り、空いたスペースへ別の赤色部分の施設を建て直すといった、順繰りでやっていくイメージか。

（事務局）黄色部分に、赤色部分３箇所分の処理が可能となる高性能施設を建設する。

（委　員）黄色部分が完成すれば、赤色部分は余剰になるのか。

（事務局）不要となる赤色部分は解体して、汚泥処理施設の建替用地とする予定である。

（委　員）カーボンニュートラル処理場計画について、令和８年から令和１７年までの事業期間になっているが、年数、事業費の登録要件を教えてほしい。

（事務局）この計画の事業期間は５年から１０年と定められている。終末処理場は大規模建替えのため、１０年で申請している。事業費は１６０億円程度の見込みだが、これは基本設計の中で詳細に計算する。

（委　員）再エネについては、第１系統の水処理施設撤去後に、太陽光発電施設を設置するのか。撤去費用まで含めて総事業費１６０億円なのか。

（事務局）お見込みのとおり。

（副会長）基本設計の中では、何種類の処理方式を検討しているのか。
（事務局）まだ決まっていない。膜処理や現在導入しているペガサス（硝化促進型)、また別の新しい処理方式をこれから比較検討する予定である。
（副会長）現時点で比較する種類は決まっていないが、今年度中に処理方式を決定するということなのか。
（事務局）比較検討も含めて、今年度中に決定したい。

（会　長）現在の３つの水処理施設はどの処理方式なのか。同じような方法を踏襲する予定か、別の方法を想定しているのか。
（事務局）ペガサス（硝化促進型）と循環式硝化脱窒の２種類で処理している。これらも今回の比較検討に入れる予定である。
（会　長）標準法は窒素やリンを除去せずに有機物を取るスタンダードな方法であり、ペガサスは窒素を除去する方法である。リンの除去はどういう方法で行っているのか。
（事務局）薬品を使って除去している。
（会　長）窒素除去は生物、リン除去は薬品を使っているが、新施設は生物でリンも窒素も除去しようという方針なのか、それとも今と同様に、化学的に除去する部分と生物で除去する部分とで考えているのか。
（事務局）現段階では未定であり、比較検討したうえで決定したい。

（会　長）創エネの導入効果２８％とは、メタンガスを燃やすことによって、場内エネルギーの２８％を賄えるという意味なのか。
（事務局）お見込みのとおり。

（委　員）事業方式や発注方式は下水道事業団にお願いするのか、性能発注にするのか等、検討が進んでいるのか。
（事務局）現時点では決定していない。基本設計の中で検討する。

（会　長）生物処理をすると、新たに生物の固形産業廃棄物として出てきた汚泥を処理しないといけない。メタンガス回収処理後に出てくる産業廃棄物の処分方法を教えてほしい。
（事務局）脱水汚泥は場外に運び出し、市内の宗像清掃工場で焼却処分している。
（会　長）ごみの焼却灰などと一緒に出てきた焼却灰は、全量埋め立てされるのか。
（事務局）焼却灰は建設資材として１００％再利用されている。焼却できないものについては、別の施設で埋め立てをしている。
（会　長）肥料とする考えはないのか。
（事務局）今のところは考えていない。

（会　長）下水処理場は水を綺麗にする機能と、そこから出てくる産業廃棄物としての汚泥を処理する機能の２つが必要である。今回は水処理施設が中心になっているが、本来は産業廃棄物をどう処理するのかということとセットで考えるべきではないのか。この審議会で取り扱わなくてよいのか。

（事務局）終末処理場の再構築は水処理施設から取りかかり、次に汚泥処理施設に取りかかる予定のため、その段階で検討したい。
現在、新しいごみ処理施設建設の動きがあり、脱水汚泥の処理については、宗像市、福津市、古賀市、新宮町の３市１町で検討が進められているが、宗像市では、脱水汚泥を焼却処理することを前提に協議を進めている。

（会　長）お金をかけてでも綺麗な水質の水を排出する考えか、ある程度の処理である程度の水質で排出した方が経済的だとの考えなのか教えてほしい。

（事務局）処理後に河川へ放流した水は、下流の浄水場で上水用として取水している。水道事業を行っている宗像地区事務組合からは現在の水質を守ってもらいたいとの要望があり、費用が多くかかるとしても、現在の水質を守っていきたいと考えている。

（会　長）余計な費用はかかるが、管を敷設して取水口の下流側で放流してはどうか。

（事務局）相当の費用負担となるため考えていない。
下水道の高度処理と上水道の浄水処理が重複しているとの意見もある中、経費削減とあわせて、効果的な処理方法について宗像地区事務組合とも協議していきたい。

（会　長）博多湾などの河口域では、豊かな生態系を取り戻すため、むしろ窒素やリンを出してくれという漁民の声がある。釣川下流や沿岸域の漁民や養殖場から、水域の生態系が貧弱化しているため窒素やリンを出してほしいという要望はないのか。

（事務局）以前、九州地方環境事務所から、河川への放流水の水質が余りにも良すぎて、生物多様性が損なわれてきているとの話を聞いた。処理方法については、こうした事情も勘案しながら、最適な方法を選択していきたい。

（２）宗像市下水道事業経営戦略に関すること

【事務局が資料５　宗像市下水道事業経営戦略に関することについて説明】

【質疑応答など】

（副会長）新設の水処理施設やコンクリート製管路は６０年使うことから、令和１４年までではなく、５０～６０年先の計画とするべきではないのか。過疎地や今後過疎化が予想される地域では浄化槽にするなど、国土交通省が提案するベストミックスも踏まえつつ、下水処理場も将来的には系列ごとにスケールダ

ウンしていくことまでを含めた計画にすべきだと考えるがいかがか。
（事務局）経営戦略は１０年間の計画を公表するものである。浄化槽への転換については、予想できるものについては加味しながら検討を進めていきたい。

（委　員）資料６ページの経営状況について、純利益が減少傾向であるが収益面の減少や費用面の増加など要因があると思う。ここ数年の傾向を教えてほしい。
（事務局）近年の純利益減少の主な要因は物価上昇に加え、処理場施設の老朽化に伴う修繕費の増加である。

（委　員）経営戦略作成後、１０年の計画期間中に定期的な見直しを行っているのか。
（事務局）資料６の５に記載のとおり、毎年事後検証を行いながら、少なくとも３～５年を目安に見直すこととしている。

（委　員）資料６の４（１）投資・財政計画について、令和７年度計画の純利益２２７百万円に対して、資料５の６頁では約３００百万円となっているが、想定よりも経営的には若干良い結果になったのか。
（事務局）お見込のとおり。

（委　員）資料６の作成当時は、今のような金利や物価の上昇を見込んだものではないと思われる。そのため、この計画を実施すると、費用が増えて利益は下がる傾向になると考えられるが、それでも利益が良くなっているのは、人口増加や使用者増など、収益面での上振れがあったのか。
（事務局）支出に関しては、予算値と決算値では執行残などでズレが生じるため、上振れしていると考える。
経営戦略策定時よりも下水道使用料を確保できていることが大きな要因と考える。金利上昇や物価高騰など支出ばかりに目が行く傾向だが、バランスよく収支の動きを見ながら、経営戦略の見直しを行っていきたい。
（委　員）当初計画と実績のズレの要因は、今後の参考になると思う。

（会　長）使用料について、メーターはどのように設置しているのか教えてほしい。
（事務局）基本的に上水のメーター水量を下水の水量として計算している。
（会　長）料金収入だけで黒字であって、他から補助金を受けてはいないのか。
（事務局）一般的に基準内繰入として、一般会計からの繰り入れが認められているものを含めたうえで、現状としては下水道使用料で汚水処理経費を賄えている。
下水道事業に要する費用は下水道使用料で賄うことが原則だが、実際には、環境保全に資するなどの下水道の公共的な役割を勘案して、一般会計からそれらのお金を受け入れて経営を行っている。営業収支ベースでは、実質的には使用料だけで賄いきれておらず、一般会計から貰うお金を含めて黒字を維

持している状況である。

（会　長）一般会計からの繰り入れは、宗像市だけではなく他の市町村も同様なのか。

（事務局）基本的に国が定める基準で決まっているため、どの自治体の下水道事業においても同様と認識している。

（会　長）現状では黒字経営であり、下水処理場をリニューアルしたとしても料金改定は考えていないという理解でよいのか。

（事務局）経営戦略を見直した結果を踏まえて、安易に下水道使用料を改定することのないように、事業経営の健全性を確保していきたい。

（委　員）前回の料金改定はいつ行ったのか。

（事務局）平成 17 年である。

（副会長）カーボンニュートラルを推進することで、市民のメリットがあるのか。

（事務局）気候変動、生物多様性の喪失、汚染の大きな３つの危機に直面している中、宗像の豊かな自然や快適な生活環境を今後も実感できるように、カーボンニュートラルの推進に取り組むことは有意義であると考える。

（副会長）下水道使用料や経営面についてはマイナスだが、豊かな自然や地球全体のためにカーボンニュートラルを進めるという方針か。

（事務局）経費負担の側面でいえば、カーボンニュートラルを含めた脱炭素の取り組みについては、下水道事業会計とは別会計で行っているため、下水道使用者の負担にはなっていない状況である。

〇会議全体を通して

【質疑応答など】

（会　長）２０５０年までに二酸化炭素排出量ゼロ、２０３０年までに５０％削減する目標を掲げているが、市のカーボンニュートラルの現状を教えてほしい。

（事務局）宗像市としては、２０３０年の中間目標については達成できる見通し。現在、市内の家庭、事業所での太陽光発電機設備、蓄電池設置への助成も行っており、家庭においても、再生可能エネルギーを生活に取り入れていただく取り組みを推進している。

（会　長）公的施設である市役所や下水処理場にも目標は課されているのか。

（事務局）公共施設における再生可能エネルギー導入の促進は、ゼロカーボンシティ宣言後、市として積極的に行っている。終末処理場についても、国の計画の登録要件の中に脱炭素化の推進があり、事業期間である１０年後までには、自前で再生可能エネルギーを活用できる環境を作っていきたいと考えている。

７．その他

【事務局が資料７　宗像市下水道事業運営審議会のスケジュールについて説明】

・第２回審議会開催日時：令和８年１２月１６日（水）１０時～

【質疑応答及び意見】

（会　長）今回の審議会で諮問・答申の予定はあるのか。

（事務局）現時点で諮問の予定はない。

（委　員）審議する主な内容についての詳細は。

（事務局）詳しくわかり次第、案内していく。

８．閉会